

平成 27 年第 3 回那須塩原市議会定例会

議 事 日 程 (第 2 号)

平成 27 年 6 月 8 日 (月曜日) 午前 10 時開議

日程第 1 会派代表質問

16 番 君島一郎議員

- 1 . 市所有の美術品について
- 2 . 阿久津市政について

19 番 若松東征議員

- 1 . 道路整備基本計画に基づく道路行政について
- 2 . 阿久津市政の総括と今後の抱負について

出席議員（26名）

1番	藤村由美子	議員	2番	星宏子	議員
3番	相馬剛	議員	4番	齊藤誠之	議員
5番	佐藤一則	議員	6番	鈴木伸彦	議員
7番	櫻田貴久	議員	8番	大野恭男	議員
9番	伊藤豊美	議員	10番	松田寛人	議員
11番	高久好一	議員	12番	鈴木紀	議員
13番	磯飛清	議員	14番	眞壁俊郎	議員
15番	齋藤寿一	議員	16番	君島一郎	議員
17番	吉成伸一	議員	18番	金子哲也	議員
19番	若松東征	議員	20番	山本はるひ	議員
21番	相馬義一	議員	22番	玉野宏	議員
23番	平山啓子	議員	24番	植木弘行	議員
25番	人見菊一	議員	26番	中村芳隆	議員

欠席議員（なし）

説明のために出席した者の職氏名

市長	阿久津憲二	副市長	人見寛敏
教育長	大宮司敏夫	企画部長	片桐計幸
企画政策課長	佐藤章	総務部長	和久強
総務課長	菊池敏雄	財政課長	中山雅彦
生活環境部長	渡邊秀樹	環境管理課長	臼井一之
保健福祉部長	松江孝一郎	社会福祉課長	菊地富士夫
子ども未来部	藤田恵子	子育て支援課長	石塚昌章
産業観光部長	藤田輝夫	農務畜産課長	印南良夫
建設部長	君島勝	都市計画課長	稲見一美
上下水道部長	八木澤秀	水道課長	小仁所滋
教育部長	伴内照和	教育総務課長	小林一恵
会計管理者	大島厚子	選管・監査・固定資産評価・公平委員会事務局長	会田裕司
農業委員会事務局長	川嶋勇一	西那須野支所長	関谷正徳

塩原支所長 赤 井 清 宏

本会議に出席した事務局職員

議会議務局長 阿久津 誠

課長補佐兼
議事調査係長 増田 健造

議事調査係 長岡 栄治

議事課長 大武 利幸

議事調査係 伊藤 靖

議事調査係 磯 昭弘

開議 午前10時00分

開議の宣告

議長（中村芳隆議員） おはようございます。
散会前に引き続き、本日の会議を開きます。
ただいまの出席議員は26名であります。

議事日程の報告

議長（中村芳隆議員） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

会派代表質問

議長（中村芳隆議員） 日程第1、会派代表質問を行います。

質問通告者に対し、順次発言を許します。

君島一郎議員

議長（中村芳隆議員） 初めに、TEAM那須塩原、16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） それでは、会派代表質問1番目の質問をさせていただきます。

初めに、市所有の美術品について。

平成25年度末におきます那須塩原市所有の美術品等は790点あります。私は美術品というと高価なものをイメージします。そこで、この美術品等について、次の項目についてお伺いをいたします。

美術品とはどのようなものか。

現在までに何点になったのか。

保管はどのように行っているのか。

評価額はどの程度か。

寄附、購入等の区分はどのようになっているのか。

以上につきまして1回目の質問とさせていただきます。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員の質問に対し答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） TEAM那須塩原、君島一郎議員の代表質問に順次お答えをさせていただきます。

まず、市所有の美術品についてでございますが、美術品等とはどのようなものかについてですが、美術品等とは、絵画、彫刻、掛け軸、骨董品及びその他の美術品であります。その他の美術品の内容は、竹工芸、つば、版画などの美術作品、絵画などの歴史資料、化石などの自然資料などでございます。

次に、の現在までに何点になったのかについてですが、合計点数では平成27年3月31日現在853点で、内訳といたしましては、絵画330点、彫刻20点、掛け軸12点、骨董品1点、その他の美術品490点でございます。

なお、平成27年3月に寄贈を受けました三木俊治作品及び三木コレクションにつきましては、現在、作品の調査、整理中でありますので、この点数には含まれておりません。

の保管はどのように行っているかですが、美術品等のほとんどを保管している那須野が原博物館において、企画展などで展示するとき以外は収蔵庫において保管しております。その他の施設においてはロビーや通路などで展示を行うなど、適切に保管しております。

の評価額はどの程度かでございますが、これは、の寄附、購入等の区分はどのようになっているかという質問については、これ関連がありま

すので、一括でお答えをいたします。

美術品等は取得方法により購入と寄贈に区分しております。評価額の合計は1億4,879万1,439円で、内訳は、購入したものが800点で、評価は1億4,649万1,437円、寄贈されたものは53点で、うち評価が明らかなものは6点、230万円でございます。

以上、第1回の答弁といたします。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） それでは、1から5までまとめて再質問をさせていただきます。

ただいまのの中で、博物館のほうで保管をしていると、で、企画展以外のときには博物館で保管をしているということでしたが、合併後、企画展というものは、これは美術品にかかわる企画展というものが何回ほど開催されたのかお伺いをしたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育部長。

教育部長（伴内照和） お答えいたします。

企画展につきましては、申しわけありません。合併後の企画展の実施回数については、細かい資料を手持ちでは持っておりませんが、近年では国立近代美術館の工芸館の名品展であるとかそういったものが今年度で4回開催をする予定であります。その他、これまで計画的な形でそのテーマを絞って開催をしておりますので、これまで、大変申しわけありませんが、総回数についてはちょっと手持ちがございませんので、ご容赦いただきたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） 私、ちょっと聞き方が悪かったのかどうか分かりませんが、今お聞きしています美術品にかかわる企画展が何回ほど合併後開催されているのかということで、その

辺をちょっとお聞きしたいなと思っているんですが、いかがでしょうか。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育部長。

教育部長（伴内照和） 本市が所有する美術品として登録されているものを、那須野が原博物館開館以降でございますが、これまでに11回展示を行っております。

以上です。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） それで、先ほどもちょっとお聞きしたんですが、合併後といいますと当然、那須野が原博物館ができた当時の企画展でありますと旧西那須野町所有の分だけという解釈になると思いますので、合併後、旧黒磯市、旧塩原町を含めた美術品が現在853点ほどあるということでございますので、ロビーあるいは廊下に飾ってある絵画を除いたもので企画展というものを合併後何回ほど開催されているのかを再度お伺いしたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育部長。

教育部長（伴内照和） 17年からの事業ということで、これまで、先ほど申し上げましたように、合併以降、所蔵しているものを中心に展示を行ったものが、合併時点を除きますと8回になります。そのほか一応、企画展という形で美術品等を展示しているものにつきましては、先ほど申し上げましたが、国立近代美術館等の借り入れによる展示が3回、そのほか栃木県立美術館、また県立博物館の所蔵するものを展示したものが3回、また、今年度につきましては、先ほど市長からの答弁にもありましたが、三木さんから寄贈を受けましたコレクション等も年度末に展示をしていくというようなことで、合わせまして14回、ことしを入れ

ますと15回程度を実施する予定であります。

以上です。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） 今回入れて15回、平成17年から8回ということでご答弁いただきましたけれども、私の認識が不足しているのかどうか分かりませんが、この市所有の美術品にかかわる一般市民への展示といたしますか、こういうものについての開催された記憶が私ほとんどなかったものですから、今回質問を出させていただきました。

で、件数的に853件、金額で1億4,600万余りの金額になるということでございますので、本年度合併10周年の今回はいろいろなイベントが開催されますので、そういうイベントが開催される際に、展示可能な場所、こういうものにつきましては展示をし、一般市民の方にも目の触れるような形をとっていただきたいなど、このように思っておりますが、お考えをお伺いしたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育部長。

教育部長（伴内照和） 市で所有する美術品の展示については、ただいま質問ありましたように、回数的にはことしを入れて15回ということで、決して多くないのかなというような思いも正直持っております。

ただ、市の所有する美術品につきましては、やはり一定の企画性、統一性を持ったものを展示して市民の方に理解をいただく、深めていただくというような考えもございますので、現在持っている1,000点近くの美術品の中で、それぞれ歴史的背景であるとかそういったものを今後整理しながら、博物館、また日新の館等々を活用して展示をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） できるだけ、展示されるときには、市民のほうに周知を徹底した中で展示をしていただきたいなと思っております。

それでは、続きまして、2項目のほうに移らせていただきます。

2番目、阿久津市政についてお伺いいたします。

阿久津市長は平成24年1月22日に市長に就任し、3年5カ月間が経過いたしました。就任後2年5カ月間は市民から不平不満が多く出されておりましたが、この1年間は阿久津市長に対する評価がうなぎ登りに支持されております。

本年第1回那須塩原市議会定例会において、市長の市長選挙公約の達成度をお伺いしたところ、手法は違っていても公約の目的は全て達成できたとご答弁をいただきました。また、一方で定住自立圏構想、中心市街地活性化事業や新庁舎建設など、本市の将来を見据えた新規施策の計画を樹立し始めております。阿久津市長の本市に対する思いと今後の考え方を伺いたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員の質問に対し答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） お答えいたします。

私が市長に就任して4年目を迎えております。これまで、漫然とした前例踏襲にとらわれることなく積極果敢に変革に挑み、放射能対策や少子化への対応、地域産業の活性化への取り組み、さまざまな事業を実施してまいりました。

特に、人口減少問題につきましては、本市においても避けては通れないとの強い危機感から、本市における最も重要な課題として、市長就任からの2カ年は厳しい行財政の改革を行うことで財政の健全化に努め、捻出した財源を将来に向けて投資していくこととしたわけでございます。

そして、他市に先駆け、人々から選ばれるまち

づくりをいち早く掲げ、昨年3月に定住促進計画を策定し、本年3月には全国で3番目と、結果としてなりましたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略を公表いたしました。今後におきましても、国及び県との連携のもと、本総合戦略に基づく総合的かつ戦略的な定住促進に向けた本市独自の施策を推進してまいります。

また、未来への投資として実施してまいります主な事業として、黒磯駅周辺地区都市再生整備事業や那須塩原駅周辺地区における整備事業、そして新庁舎建設事業等の大規模な事業を展開していくこととなりますが、地域内外の人々が集う集約的な拠点を整備していくことで、人々から選ばれるまちづくり、人口の減らないまちづくりの実現に向け、職員ともども一丸となって、引き続き全力で取り組んでいきたいと考えております。

第1回の答弁にします。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） ただいま市長の阿久津市政に対する思いと考え方をお聞きしたところでございますが、これら新規事業等に取り組んでいくには身体が基本となってくるかと思えます。一部うわさの中で、阿久津市長は筆を持って署名ができないのではないかというようなうわさが一部で流れておりますが、体調についてはいかがでしょうか。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） ご心配大変ありがとうございます。現在のところそういうことはなく経過をしております。なお、健康についても、これは記者のほうからも質問を受けておりますが、若干、血糖値、それが上がっているよというので、ことしの4月から、これは生まれて初めて薬を飲んだら劇的に回復をしたと、こんな状況でござい

ます。その他については、健康診断を受けていますので、手当てをすることはほとんどないと、こういう状況でございました。

よって、この健康についての不安というのは、自分では本当にもう全然気にしてもしないといいますが、そういう状況でございますので、ご理解をいただければと思います。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） やはり阿久津市長のほう、私が見たとおり、今の阿久津市長の気力、体力ともに充実しているようにお見受けをしておりましたけれども、一部にそんなうわさが出ておりましたので、若干気になったところでございます。

国と県との連携を密にし、新規事業の実施を推進し、計画を実施することが本市のまちづくりにつながるものと考えておりますが、本年12月20日に告示される那須塩原市長選挙への市長の決意についてお伺いをしたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） ただいま質問をいただきました。実のところ私はこの3年5カ月の間、次期どうするか全く考えないでここまで走り切ってきたと。この第1番目の原因は、やっぱり市政に没頭していたのが1つ。一日一日とそういう決意を持って臨んでおりましたので、本当に自分で次どうするかと向き合ったことがないまま、ずっと日が過ぎておりました。

あるいは県会議員、ちょっと長く務めましたが、県会議員って初めて出るときとやめるときしか話題になりません。記者会見もしてない。だから、このやっているとき、どうだ、どうだと皆さんに質問されるのは、市長になってからということで、そういう環境についてもちょっとふなれだった、決断が後送りになっていたと、こんな状況だと思

います。

後援会の人たちともたまにお会いしていますが、いつまでたってもファイティングポーズをとらないものですから、そういうことでは困ると、じゃ、市政報告会でもやったらどうだということで、2月から市内8地区に分けて、現在5地区が終了しております、あと残る3地区についても大体この日にち、場所等も決まってきたということで、きょう君島議員から質問をいただいて、ここで答弁するのは今なんだと、本当にこの一、二週間前から強く意識をし出してきたということでございます。

私の2期目につきましては、これは無所属、市民党を旗印に掲げまして出馬をこの場から表明させていただきたいと思っております。もともと表明するときは議場で強く思っておりましたので、正式に出馬をお話するのは、この議場が最初ということになりますので、議員並びに市民の皆様のご理解をいただければと思っております。

今後とも今までのスタイルを崩すつもりはございませんが、一口で言うと、チャレンジing那須塩原、そして未来への投資、これを基本理念にいたしまして、強い意志と明確な顔を持った予算の執行に今後とも全力を注いでいきたいと思っております。議員各位の今後のご理解を重ねてお願いを申し上げます。また、この答弁に当たりまして、この質問をいただきました君島議員にも謝意を申し添えまして答弁にかえます。

議長（中村芳隆議員） 16番、君島一郎議員。

16番（君島一郎議員） 阿久津市長、はっきりしたご答弁をいただきまして大変ありがとうございます。阿久津市長の再選のご健闘をご祈念申し上げます。私の代表質問を終了したいと思います。大変ありがとうございました。

議長（中村芳隆議員） 以上でTEAM那須塩原

の会派代表質問は終了いたしました。

若松東征議員

議長（中村芳隆議員） 次に、五峰クラブ、19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 五峰クラブ、19番、若松東征。代表質問を行います。

道路整備基本計画に基づき道路行政について伺いたいと思います。

平成17年1月1日に旧黒磯市、旧西那須野町、旧塩原町が合併して誕生した那須塩原市は、合併に伴い策定された新市建設計画に基づき、市民生活の向上や地域経済の活性化を図るため、広域幹線道路から生活道路まで体系的に整備し、地域の一体性の確保や均衡ある発展に努める必要があります。また、自動車交通需要の伸びは、近年、社会経済の変化により、当初の見通しに比べて低下傾向となっており、このような交通需要の変化への対応が求められています。

このような背景を踏まえて、新市の都市構造や交通需要の変化を捉え将来道路網の整備計画を策定し、計画期間を平成18年度から平成27年度までの10年間とする道路整備基本計画を策定されましたが、その中で整備計画に位置づけた路線について伺います。

新たな都市構造に対応した一体的な骨格道路の形成について伺います。

人に優しい道づくりについて伺います。

環境負荷の小さな道づくりについて伺います。

豊かな自然環境を生かした個性的な道づくりについて伺います。

整備効率を重視した道づくりについて伺います。

住民参加により、まちづくりと一体となった道づくりについて伺います。

これで第1回目の質問といたします。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員の質問に対し答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） 五峰クラブ、若松東征議員の会派代表質問に順次お答えいたします。

ご質問をいただきました1の道路整備基本計画に基づく道路行政についての から までの項目は、平成18年に策定いたしました那須塩原市道路整備基本計画に記載した道路整備の6つの方針に基づきご質問をいただいておりますので、整備計画に位置づけした路線を中心にお答えしてまいります。

初めに、 の新たな都市構造に対応した一体的な骨格道路の形成に位置づけした路線は7路線あり、その中で代表的な路線としては、広域的な交通に対応する新しい玄関口として、黒磯板室インターチェンジの整備が完了し平成21年3月に開通になりました。また、平成21年度に地域間の連携を強化し交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線として新南下中野線に着手し、現在整備を進めております。

次に、 の人に優しい道づくりとして位置づけた路線は14路線あり、その中の代表的な路線としては、地域内の主要な道路の整備として平成24年度に着手した島方団地中線があり、今年度の完了を予定しております。

また、槻沢小学校北側の国道4号交差点から主要地方道西那須野那須線まで計画しました幹1-3号線である石林通り線につきましては、平成23年度に整備が完了したほか、地域内の利便性を高める道路として計画した上の原地区から塩原地区に至る旧新湯線についても平成21年度に整備が完

了しております。

次に、 の環境負荷の小さな道づくりとして位置づけた路線は2路線あり、公共交通機関の利用を促進する施設の整備として西那須野西口駅前広場駐車場及び駐輪場の整備が平成23年度に完了しております。

また、黒磯西口駅前広場、東口駅前広場については、平成26年度から事業に着手しており、東口駅前広場については平成27年、西口駅前広場については平成30年度の完了を目指しております。

次に、 の豊かな自然環境を生かした個性的な道づくりとして位置づけた路線は2路線でございます。沼ッ原湿原周辺の豊かな自然環境を活用する道路として計画した板室沼原線につきましては、本年度に整備が完了する予定であります。

次に、 の整備効率を重視した道づくりでございますが、新幹線側道西3号線につきましては、那須塩原駅北土地区画整理事業による整備路線が代替機能をあわせ持つため、平成22年度の見直しについて計画から除外しております。

最後に、 の住民参加によるまちづくりと一体となった道づくりとして整備計画に位置づけた路線は7路線あり、その中の代表的な路線として中心市街地の活性化を促進する道路整備である都市計画道路342中央通りの整備については、平成21年度に完了しております。

第1回の答弁にかえます。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 市長、大変明確な答弁ありがとうございます。

続きまして、再質問に入らせていただきます。

今、主な計画道路について完了または継続という形で答弁をいただきました。2回目の再質問についてお伺いします。

それでは、順次質問させていただきます。

まず、いただいた資料、那須塩原市道路整備基本計画において平成22年度の見通し、追加になった市湯街道2号線についてお聞きします。

湯街道2号線は、鍋掛の寺子地区から黒磯地区市街地へ行くための一番便利な道路であり、地域にとっても大変重要な道路であります。また、時間帯によっては混雑する主要地方道路黒磯黒羽の渋滞の緩和にも役立つ道路ではないかと思っております。市においては平成25年度から湯街道2号線の整備を着手しているのです、湯街道2号線の道路整備基本計画に位置づけ及びその事業効果などをどのように捉えているかお伺いします。

次に、都市計画道路334号東那須野東通りについてお伺いします。

道路整備基本計画において主要幹線道路に位置づけさせている都市計画道路334号東那須野東通りについてお聞きいたします。

334号東那須野東通りは、都市計画道路332号黒磯那須北線と一般国道4号を結ぶ道路で、既にJR東北本線北側の一部は土地区画整理事業により整備されております。先日の東那須野公民館で開催されました議会報告会においても出席者から、334号東那須野東通りに関する質問、意見が多く出され、地域の方々が高い関心を持っていることがわかりました。つきまして、道路整備基本計画における334号東那須野東通りの位置づけ及び今後の整備についてお伺いします。

この2点について再質問をさせていただきます。よろしくお願ひします。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

建設部長。

建設部長（君島 勝） それでは、2点ほどお尋ねをいただきました。市道湯街道2号線の、まずご質問ですが、平成25年度に事業着手しました市

道湯街道2号線の道路整備基本計画における位置づけにつきましては、同計画の将来道路網図におきまして、近隣住区と幹線道路を連絡する道路として補助幹線道路の市道鍋掛横3号線と広域幹線道路の一般国道4号間を結ぶ補助幹線道路に位置づけされており、既存道路の交通混雑を緩和し地域間交流を促進するために実施するものであります。

事業効果につきましては、湯街道の2号線が整備されますと、本市道が接続し、那珂川にかかるあじさい橋を通る市道鍋掛横3号線、都市計画道路341本郷通りと接続されまして、寺子地区や越堀地区方面など那珂川の東側地域からのアクセス向上と西側周辺地域の利便性向上が図られるのもとより、隣的那須町から黒磯駅周辺地区への往来も容易になるため、那須圏域の交流促進にも大きく寄与する効果があるものと考えております。

また、ご指摘の主要地方道黒磯黒羽線の渋滞緩和につきましても、本市道が迂回路の役割を果たすことによりまして、交通混雑緩和に大きな効果を発揮するものと考えております。

次に、2つ目のご質問になりますが、都市計画道路334号東那須野東通りのご質問ですが、都市計画道路334号東那須野東通りは、道路基本計画の将来道路網図におきまして、都市の骨格を形成する高水準の規格を備える道路である主要幹線道路として那須塩原駅を中心とする外環状線網を構成する路線に位置づけされております。

また、将来道路網図では、同じく幹線道路に位置づけされている県道東小屋黒羽線を振りかえまして334号東那須野東通りと接続する計画となっており、振りかえができれば、334号東那須野東通りは、交通拠点の那須塩原駅と他市町を結ぶ広域的なネットワークを構成する道路として近隣市町との交流促進にも大きく寄与するものと考えており

ます。

今後の整備につきましては、現在、県道東小屋黒羽線の起点の振りかえと同路線の都市計画道路332黒磯那須北線まで延伸しての整備を栃木県に要望しておりますので、その結果が出た後の検討になるものと考えております。

以上であります。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 部長、答弁ありがとうございます。

湯街道について再質問させていただきます。

かなり朝夕になると厳しい黒羽街道というか鍋掛街道というか、ありますが、その中で、計画の中で市道湯街道2号線について、全地域まで歩道の計画も入っているのでしょうか。そこをちょっと聞きたいと思うのですけれども。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

建設部長。

建設部長（君島 勝） ただいまの湯街道2号線の整備の計画でございますが、まず、この湯街道2号線の整備計画でございますが、計画延長は約2,200mほどございます。計画幅員につきましては、片側に2.5mの歩道を設けまして、計画全幅員が10mということで計画をしておるところであります。

以上です。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） ありがとうございます。

なぜそんなことを聞いたかということ、道路ができてから地域から要望が出るのがその歩道の危険性ということだったものですから、大変ありがとうございます。了解いたしました。

次に、都市計画道路334号東那須野東通りについては、るる説明は伺いました。状況的には大変なことに入っているのかなというふうに思います。

お互いに県道並びに国道を通過してJRのアンダーというもので、金額的にも大変なのかなと思いますけれども、たまたま議会報告会ではその意見が数多く出まして、なぜかということ、今、西地区のほうでは新庁舎建設でちょっと話題になって、じゃ、東口のほうは何なのというようなものがありましたものですから、ぜひその辺も早目に検討の協議をして、全体的には県道が途中で切れちゃうような状態になるのですけれども、その辺の要望性についてはどのような交渉になっているのか、これからなのかなとか、その点1点だけお願いします。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

建設部長。

建設部長（君島 勝） ただいまのご質問ですが、東那須野東通りにつきましては、先ほども申し上げましたように、県のほうに振りかえまして332黒磯那須北線という都市計画道路がありまして、そちらまで延伸して、県道として整備をしていただけないかというような要望をしておるところであります。栃木県といたしましては、すぐ、はいわかりましたというような返事はなかなかいただけておりません。

県のほうといたしましては、まず、JRのアンダーのほうに相当な事業費がかかるであろうというようなことがありまして、県の体力的な問題ですとか、それから、県としての整備の必要性などの検討が必要であるということから、道路のネットワークのあり方等につきまして今後、本市と調整を図っていきたいということでの回答をいただいております。

以上です。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 大変ご苦労されているのかなと思います。一番注目されているのかなと

思っておりますから、その辺もよく考えおきいただきまして、ぜひ進めていただきたいと思っております。

これで私の道路行政についての質問を終わります。

2の質問に入らせていただきます。

阿久津市政の総括と今後の抱負についてお伺いいたします。先ほど答弁はいただきましたんですけども、ぜひよろしくお伺いいたします。

阿久津市長就任後3年5カ月を迎えますが、市長はこれまで市長の課題である放射能対策事業を最優先に取り組むとともに、山積みされた行政改革の解決に向け、さまざまな事業を実施されました。また、44の公約全てを実行するとともに、就任後の予算の考え方については、分度推譲の精神で全体を見直し、有効的な予算を計上するなど、次の展開のステップとされました。

さらに、全小中学校へのALTの常駐配置や子ども未来部の新設に伴う子ども未来基金7億円の設立など、多くの新案を提案実行に移すとともに、定住促進に向けた取り組みを推進し、人口の減らないまちづくり実現に向けて、昨年の予算編成では、定住促進元年と位置づけ各種事業を展開されました。

その結果、全国813都市の住みよさランキングにおいて全国94位、県内で1位にランクするなど、めざましく発展し、全国から注目を浴びております。

そこで、これまでの阿久津市政に対する市長ご本人の評価と2期目に向けての抱負についてお伺いいたします。

以上で1回目の質問とさせていただきます。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員の質問に対し答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） お答えいたします。

私は市長に就任して以来、市政の変革を念頭に、一貫して将来の人口減少への危惧と持続可能な行政経営を掲げ、迅速に課題の解決に向けて取り組んでまいりました。

近い将来に予想される人口減少による厳しい財政状況をいち早く察知するとともに、将来にわたり持続可能な財政運営を維持していくため、自主財源、そして自主財源比率、これらの確保及びその比率を高めると、こういうことに意を用いまして、経費の無駄ゼロに努めていく、いわゆる入るをはかりて出ざるをなすという考えとあわせて、分度推譲に倣い、効果的な予算配分と執行に努めてまいりました。

そのため、これまで先駆的に取り組んできております定住促進施策につきましては、昨年度においては、定住促進元年予算と位置づけ、本市における定住促進の第一歩を踏み出した年度として、本年度におきましては、定住促進のさらなる推進に向け定住促進深化予算とすることで、優先すべき施策、課題、事業を明確化するとともに、これまで蓄積した貴重な財源を活用し、未来への投資につながる事業に積極的に取り組むことといたしております。

これまで私が3年5カ月にわたって行ってきた各種の政策につきましては、将来持続可能な行政運営、人々から選ばれる未来の那須塩原の実現に向け一定の効果を生み出しているものと考えており、市民の皆様からもそれなりの評価をいただけたものであると認識しております。

今後におきましては、これまで先駆的に取り組んでまいりました事業のさらなる充実を図るとともに、未来への投資として実施してまいります各種の社会資本整備事業、市独自の施策を実施していくことで、住んでよかったと思っていただける

ようなまちづくりをさらに推進し、本市が名実ともに県北の中核を担う都市であるよう、引き続き邁進したいと考えております。

以上、第1回の答弁にかえます。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 大変ご答弁ありがとうございます。社会資本の整備事業とかいろいろ答弁ありがとうございます。

再質問に入らせていただきます。

市長はこれまでの政策等において、常にスピード感を持って行動すると言いますが、そのスピード感とは何かお伺いしたいと思います。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） ことわざの話でお茶を濁すつもりはございませんが、思い立ったが吉日、これ日本のことわざ、中国では、孫子の戦略編の一番最初に出てくるのは、事業を行うときは拙速をもってとうとしとなす、完璧を求めるとそのうち色あせてしまうと、こういうようなことわざがございますので、私はそれを実行するというのではありません。

どちらかと言うと、今日まで四十数年間にわたって全国は、ほぼ全国一律と言われる振興計画、10年と5年の計画が主力ですが、これに沿って全てが行われていたと、何かを組み入れたくとも計画から外れたことはなかなか実行が難しいと、こういうのが那須塩原だけではなくて全国の現状だったと思います。これを克服するためには、少々の無理とスピード感がないと克服は、私は難しいと改めて市長に就任したときから感じておりました。

そういうようなことで、スピード感を持った一番の心に残っていることは放射能の除染。十二、三年かけて毎年7億ぐらいでやっているのだめだ

と。3年でやってくれと言ったら、大変、本当に失笑を買うような状況でした。でもやったらできて3年でほぼ完了。これは県内でも断トツの規模とスピードで進んだ。やればできるんだという思いを非常に固めたわけでありまして、そのほかにもありましたよ。LED街灯7,400個、400個ずつ20年やると、さきが壊れてっちゃうんですね。1年でやってくれ。なかなかやらなかったんですけども、でもどうしても1年で行ってくれと、ロスが非常に少なくなる。これもぱっと1年で完了できた。

きわめつけは、教育長から外国の英語講師を34人雇ってくれと言われたとき、うっと思いましたよ。でも、私が返事するのに30秒かからなかった。よし行ってみよう。これは初年度1億3,000万、2年度が1億6,000万かかりますよ。大丈夫だと。これが多分スピード感につながっているんだろうと思います。

ただ、スピード感を出すには、財政を健全にして、いつでも出てきた課題をぱっと打ち出せる、その財政力を持っていないと話をするだけで全てが流れていってしまうと、こういうことにもつながってくるのではないかと思います。

やっぱりもう一つ心に残っているのは、就任したときから将来の一大課題は人口減少だということで、去年の5月に創成会議が発表する2年数カ月前から那須塩原市は、この人口減少に対する政策を次々に検討に入っていた。打つためには、国も県もまだ問題になっていませんでしたので、自分たちがお金をストックして政策を打たないと打てないと、こういうことをわかっておりましたので、上を向いて金くれということは全くなく、自分たちが思うような政策を打ってきたと。これについては、石破創生担当大臣も本で読んでおりますが、これまで全国一律の状況を打破するため、

この創生担当大臣としては、市町村の競争やむなしと、こういうことに相なっているはずでございます。どれだけ積極的にこの独自の政策が打てるか、打てないでスクラムを組んで話し合いをしていると、それはほとんどいいことでも、全部一緒にやる方法になってきますので、政策には特徴を持たせることができないと、こういうことになっておりますので、私としては、このスピード感がこれからの社会を築いていく上で最も大事。でも間違ったスピード感じゃだめなんで、よく人は移動によって賢くなると申しますが、職員にも私自身にも時間があったら移動してみる。それは50kmでも300kmでも1,000kmでもいいんですが、移動によって気づきが出てくる、こういうものを大事にしながらいずれも政策を打っていきたくて考えております。

答弁になったのかならないのか、スピード感ということでちょっとお話をさせていただきました。議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 大変、答弁もスピード感のある説明で、ありがとうございます。

確かに市長就任以来、我々も市民も市役所に来て、あ、なるほどなと感じることがかなりあるのかなと思います。移動をもって知るということで、大変ありがとうございます。

3年5カ月の間にかなり変わってきたのかなというのは、市民から聞いた話、職員の動きがかなり活発になってきたと、これはどういうことのかなということ、これが先ほどの市長のスピード感の答弁なのかなと納得いたしました。ありがとうございました。

続いて、もう一点質問させていただきます。

市長は就任して以来、市政の変革を念頭に多くの課題の解決に向け取り組んでまいりましたが、変革という言葉の真意、また、どのような変革を

実施されたのか伺いいたします。

議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

市長（阿久津憲二） お答えいたします。

私にとっての変革、これは一般的には、辞書で見ると、何かを変え改めるといふことなんですが、その意味だけではございません。私の心にあるイメージとしては、あす起こる行政課題に適切な手を打つ、手を打つというのは、しゃべることじゃなくて予算を伴った政策を打っていく、これが私は手を打つと言っているんですが、こういうことを行うことは、イコール変革になっていくと。だから何かを変えようと思って探しているわけではありません。あす起こってくることに手を打つ、お金をつけて予算を執行する、これを行うと、全てがもう変革になっていると、こういう捉え方を私自身はしております、この3年5カ月も、皆さんに一時はご批判をいただくことも間々ありましたが、こういう形の中で事業の執行に努めてきたと、今では思っております。

特に、どこかの市長がやるから、それはいいことですよ。どこかの市長がやるからうちもやってみるか、これはやらないよりやったほうがいいんですけれども、これはばんそうこう政策、ちょっと穴のあいたところを張りながら進んでいく、それだけでは不足があると思います。私はよく職員に言う言葉、この政策というのは突き抜けて行かないと、ほどほどばんそうこうを張っただけじゃだめだよと、突き抜けると言うんですよ。突き抜けるためにも財源は必要。いや突き抜け過ぎて窓から落ちちそうだという職員の話を聞いて、それでいいと、こんなことも思っております。

定住促進なんかの、例えば東京でのキックオフイベント、これはもう本当に全国初、これ突き抜けた具体的な姿だと思っております、そういう

意味では効果を慎重に判断しながら政策は突き抜けということ、これはイコール変革であると、こんな気持ちでこの3年5カ月やってきたと、こういうことを答弁にかえたいと思います。

ありがとうございました。

議長（中村芳隆議員） 19番、若松東征議員。

19番（若松東征議員） 今までの3年5カ月の活躍並びに計画実行などを答弁いただきました。本当にありがとうございました。

今回代表質問として道路行政並びに市長の今後の活躍ということで答弁をいただきました。道路行政については、私個人的に思うんですけども、人間の体の血管を道路に見立てると、大動脈の太い血管がどこかで詰まったら、やっぱり病気になっちゃうと。それを解決するためには、建設のほうで頑張ってもらって、この道路はどれにつながっているのか、どれにジョイントしているのかという形の中の計画策定が必要なのではないかなと思います。

一番肝心なものが抜けていて、細かい道ができてきてジョイントしたときに右折車線をつくってくれとか、そんな問題が後からでないような大きな10年後、20年後、また30年後を見立てた、人口減少がなく、人口がふえる町になって、ああなるほどいろんなものがスムーズに動いてすばらしいなという那須塩原市を夢みるような道路網をぜひ検討してもらいたいなと思います。

市長に対しては、るる3年5カ月の大変な苦しみ時代もあったと思います。先ほど君島前議長が、うなぎ登りに人気が出てきたと。その前の2年何カ月はうなぎ登りどころじゃなかったと思います。裏に回れば、ほとんどの方が悪口です。そんなものを私は耳にしてきたわけでございます。その中で、やはりスピード感、そういうものが行政を変え、市民を変えたのかなと思っております。

本当にありがとうございました。

今回市長に対して、阿久津市長の就任以来きょうまでの取り組みについて私なりに振り返ってみますと、まず、行政改革では、市が行う事業や事務を有する施設について受益と負担を必要性や効率性の重点から見直しを行い、選択と集中による事業の重点化を図り、市長の給料を月額28万8,000円減額の30%カット、退職金1,935万4,000円を減額し20円とするなど、みずから改革し、市有財産の有効化を活用との検討や、負担金、業務委託の見直しを図りました。

総務省から渡邊副市長を招きました。幹部職員の公募制度を導入し、産業観光部には観光誘客のプロである木下審議監を招くなど組織の活性化を図っております。印象的な事業としては、インバウンド戦略として上海に事務所を開設し、都市圏での大規模な観光プロモーションの開設により日本の温泉百選においても塩原温泉が47位、板室温泉が96位に躍進し、4月には市観光局を設立しました。

学校教育では、県内初の全小中学校にALTの常駐配置やタブレットの端末を利用した反転授業の実施、子育て支援施策では、子ども未来部の創設や子ども未来基金7億円の設立や、定住促進事業として新幹線通勤者に定期券購入費補助などを、また、自治体では全国的にも珍しい馬場の所有など、どれをとっても、県内はもとより全国から今や注目を浴びている市になり、今後の展開を想像するとわくわくします。

たった3年5カ月で、まだまだ言いあらわせない多くの事業を展開している市長の今後について真意をお聞きしましたが、先ほどの答弁に、引き続き勇往邁進していくと答弁があり安心しました。2期目にさらに期待をし、私の会派代表質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（中村芳隆議員） 市長。

市長（阿久津憲二） ありがとうございます。

自分で何をしてきたか、実際に言われてみるとちょっと頭に浮かぶんですが、こう言ってみると言われて言えません。ただ、ここに来て、とてもおもしろい現象が市に起きている。それは、これもことわざですが、友あり遠方より来たる。那須塩原市の議会あるいは執行部を訪ねてくる人、関西圏、九州圏、山陰圏、東北圏、非常に遠いところからここを訪ねてくる人が急にふえていると。ああこういう現象、もう最高だなと、こういう形の中で今後とも頑張っていきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

議長（中村芳隆議員） 以上で五峰クラブの会派代表質問は終了いたしました。

以上で会派代表質問通告者の質問は全て終了いたしました。会派代表質問を終わりたいと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

会派代表質問を終わります。

散会の宣告

議長（中村芳隆議員） 以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

散会 午前11時06分